

講演会受講申し込みは松江歴史館 0852-32-1607

松江歴史館 出雲流庭園講演会

日時 2019年8月24日（土曜日） 14:00 から 15:20 講演会
15:30 から 16:00 庭園案内

講師

林 秀樹 技術士（建設部門、環境部門、総合技術監理部門）
1級 造園施工管理技士、1級 造園修景士
島根県技術士会 前会長、日本造園修景協会島根県支部長

演題

「不昧公が愛した出雲の庭とホーランエンヤ」

講演概要

不昧公の時代から連綿と続く出雲の人々の庭づくりへの思いを、これまでと違う独自の視点から解説し、新たな出雲の庭の楽しみ方を紹介します。

ホーランエンヤは、松江城築城時に行われた荒神を鎮める祈祷がはじまりと言われています。その後、五穀豊穰を祈る式年神幸のお祭りとなりました。権伝馬船の上での剣権と采振の出で立ちと踊りは、歌舞伎を見ているようです。

剣権は、風鎮め舞です。化粧まわしと綱を締め、相撲力士に扮した踊り手は、神輿船が無事に渡御できるよう、風を切り鎮めます。権かきたちは「豊来栄弥」「宝来遠弥」のかけ声で、五穀豊穰を祈っています。

出雲の庭は、鳥の目で見ると一番です。飛行機で出雲空港に着陸するとき、人々は、築地松に囲まれた屋敷が点在する風景に出会います。屋敷を丁寧に見ると、多くの家々は南に向いており、客間の南西には、判で押したように枯山水の庭が設けてあります。

出雲の庭には、いくつかの伝承があります。例えば、縁起を担ぎ、七つの種の木を庭に植えると良い。庭の中には、四季が隠されている。その庭は、不昧公が愛した茶の湯を楽しむ仕掛けが備えられている。などです。また、庭の片隅には、屋敷の地鎮のために荒神が祀られていることも特徴の一つです。

庭を眺めると、左隅には人の背丈を超える立燈籠が、右隅には背の低い雪見灯籠が据えられています。巨大な駕籠石や長大な短冊石も見事です。クロマツを庭の中心に据え、ヤマモモやモチノキに囲まれた枯山水の庭のどこに四季が隠されているのでしょうか。茶の湯を楽しむ仕掛けはどこでしょうか。なぜ、出雲の人々はこのような庭を作ってきたのでしょうか。

途絶えることなく続けられてきたホーランエンヤ、数え切れないほど作られてきた出雲の庭。全く関わりがないと思われるこの二つから五穀豊穰の祈祷と信仰行事が美化され風流化するという共通点を見だし、出雲の庭の魅力を語ります。